

『キリスト教神学』の私の読み方—ひとつの助言として—

2006/05/20 安黒 務

1. 『キリスト教神学』第一巻から第四巻まで買い揃える。四色ボールペンと四色蛍光ペンを買い揃える。
2. まず、本にさわる。なでる。インクの香りを嗅ぐ。名前を書く。
3. まず、序論と結論を読む。著者の意図や目的を理解すると、書籍の“読み”が深くなる。
4. 目次を眺める。大体的な内容と流れを把握する。インデックスをつける。
5. 各章の大項目、中項目、小項目に、異なる蛍光ペンで着色していく。モノクロの書籍をカラフルで見やすい書籍に変貌させていく。
6. 各章の中にある神学者の名前にピンクの色をつけていく。よく知らない神学者・哲学者は、『キリスト教人名辞典』『キリスト教大事典』『組織神学辞典』『現代哲学事典』『現代思想事典』を開いて要点をテキストに軽く書き込んでおく。一度知っておくと、名前を見るだけで、その段落の文章を理解できるようになる。
7. 引用されている聖書箇所をすべて確認していく。いちいち開くのが手間な人は、下記のサイトから、関連聖句入りの講義レジュメをプリントアウトしてチェックしていく。
http://www.aguro.jp/file/i_b/icd00.htm
8. 書籍の読み方には、「積読（つんどく）」、「斜読」、「速読」、「熟読」、「精読」、「食読」等々、さまざまな読み方があります。価値ある書籍を買っても棚に積んどくだけでも価値があると思います。私は年間に30万円くらい神学書を買って入りましたが、積読だけの書籍もたくさんあります。しかし、必要な時がくればすぐに読めるように備え付けています。買った本のほとんどはまず「斜め読み」をします。序文と結論を読み、目次を眺め、各章の項目にラインを引きながら、一通りの概要を確認しておくのです。それらは、将来必要になったときに、どこにどんな内容のものがあったか、すばやく見つけるのに役立ちます。私は、読むべき価値のある本は徹底的に読みます。まず、インデックスをつけます。インデックスをつけながら、書籍の構成を把握するのです。そして、各章を読んでいきます。これは、新幹線の速度で読みます。項目をチェックし、次に各段落の最初の文章に赤いボールペンでラインを引きながら、内容の流れを大まかにつかんでいきます。二回目は、青いボールペンで下線を引いていきます。三回目は黄色の蛍光ペンでポイントに色をつけていきます。四回目は緑の蛍光ペンで重要なポイントに色をつけていきます。ようするに、これらの作業は、モノクロで平面的な書籍の風景に、立体的な形状を与えていくプロセスです。一回目よりも、二回目、二回目よりも三回目の方が、早く作業が進みます。五回目、十回目となっていきますと、さらさらさらっとキリスト教神学を読めるようになります。
9. 読むだけではなく、テキストの空白部分に書き込みを入れていきます。予習においては、読み通すのがやっと思いますが、復習のときには、講義ノートの整理・補足と

ともに、テキストの空白部分に、四色ボールペンで要点を書き込んだり、イラストを入れたり、メッセージの種となるポイント・メモをしたり、いろいろなことができます。「キリスト教神学」は、読むだけの本ではありません。書き込み作業を通して、あなた自身が、いわば“共著”者となるのです。エリクソンが提示、わたしが翻訳し、消化し、解釈し、分かりやすく講義したものに、あなた自身が創造的な思索力をもって参与することにより、あなた自身が“第三の著者”となっていくのです。

10. 講義は、与えられた時間内に、要点的に分かりやすくお話ししていますので、テキストで教え漏れたところがたくさん残ります。それらの箇所を丁寧に復習したり、講義で教えた要点である『基督教教理入門』の翻訳と段落単位の丁寧な解説講義である『電子メール講義録』を用いて、講義ノートを補足し、充実させていくことが大切です。テキストと講義ノートは前期・後期の最後の講義のときに、提出していただき、予習・復習の程度を評価させていただきます。
11. テストは、小論文テストで、昨年の後期より、小論文テストの問題をこちらで決めさせていただいています。今年もそのような方向で考えています。問題は早目に決めて公開問題としたいと考えています。A4用紙10.5ポイントの文字で、2～4枚程度にまとめていただきたいと思います。提出されました小論文は、希望者の小論文を集めて「小論文集」ブックレットを作成し、お互いに学び合えるように工夫しています。
12. 『キリスト教神学』の学びは、あくまで『説教準備学』的な意味をもっていますので、講義ノートの“ここかしこ”に、説教アウトライン的なメモが書きとめられるようにされますと、宣教現場への実益と方向性をもった良い学びを積み重ねていくことができると思います。「組織神学」の目指すものは、“教理的説教”です。皆さんが、聖書のあらゆる箇所から、会衆の文脈から生れてくる必要を満たす、TPO（時と場所と機会）に応じた適切な教理的説教を豊かにできるようになることが目標です。そこを目指して、ひたむきに前のものに向かって前進して行ってください。
13. 教会でよく聞かれる説教は、借り物説教であったり、例話説教であったり、証し説教であったりします。しかし、長い目で見て、健全な教会形成、信徒の霊的成長というものを考えていきますときに、聖書における幹となる教えを豊かに解き明かして説教することか最も大切だと思えます。聖書の幹となる教えとは何でしょうか。それは、2000年間の教会の歴史の中で、深く豊かに解釈されてきた教理です。私たちは、聖書の中心的な教理がもつ神学的意味合いを、会衆の必要にかみ合わせるかたちで説教することをもっともっと学ばなければなりません。
14. 豊かな教理的説教ができる教職者をたくさん輩出する神学校こそ、最も尊敬を集める神学校だと思います。宇田先生は、神学と実践をかみ合わせることに、神学校の間で競争が必要であると書いておられます。私たちは、神学校同士の競争にも勝ち抜いていきたいと思っています。すぐれた教理的説教者を輩出する点において。